【第4回】“みんなでつくる”五ヶ瀬川タイムライン検討会　議事概要

概要

（平成29年2月27日）タイムラインの一次素案についての意見交換

今回の検討会では、第３回検討会で作成したタイムライン一次素案の内容を確認した上で、想定最大規模降雨に対応したタイムラインの意見交換を実施した。検討会では、台風による記録的大雨により堤防越水が発生し、堤防が決壊、氾濫した洪水が市街地に拡散したことを想定した災害ケースを提示し、各関係機関でL2対応時に新たに実施すべき防災行動項目を抽出した。タイムラインの検討を進める上では、抽出した項目を実施するベストなタイミングを探しだす必要あるなど、今後の課題が提示された。今後の検討ではそういった視点でのタイムラインの検討会を検討する必要がある。

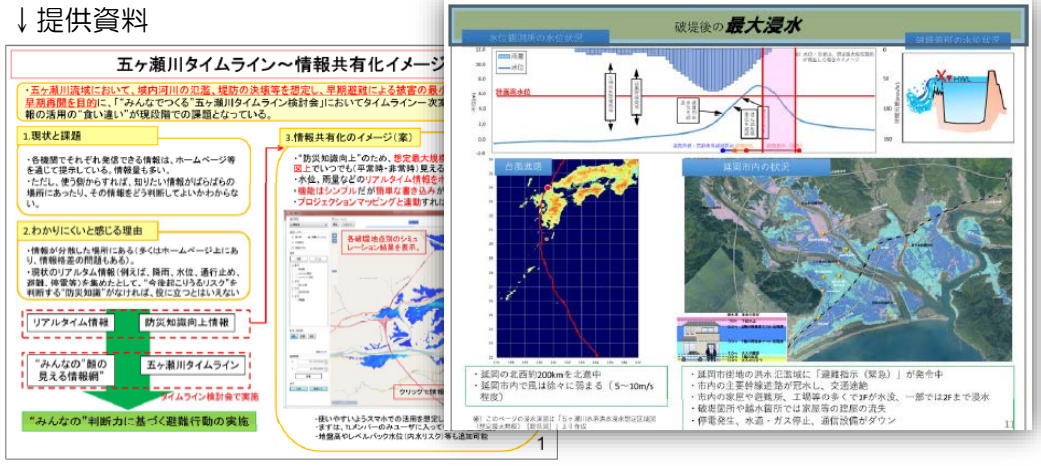
WG内での主な意見

・大規模な降雨が想定される場合には、通常より早い段階で気象情報を関係者へ連絡して欲しい・
・災害対応での経験上、住民から地域の名称を言われることが分かるが、すぐに分からないことが多いため、大字・小字が分かる地図を準備する必要がある。
・平成17年災害では県全域で大きな被害があり、１事務所だけで対応する必要が出てくる。
・建設事業者団体との協定もあるので、タイムライン へ反映して欲しい。
・水門操作員や水防パトロール、水防団員へ避難指示を出すタイミングが重要。
・ボランティアが活動するにあたって、国道・県道などの側溝を復旧する場合、行政が復旧協定しているので、そことの関係を準備に盛り込む必要がある。
・430 の区長たちとの連絡網がない状況である。自主防災組織は270 程度の組織ではあるが、連絡方法が確立しておらず活動の有無が分からない状況である。
・減災のため平常時の活動が重要と考える。他に避難所の問題がある。
・水防本部と災害対策本部との連携などを反映したい。
・一次案の“誰が”の「住民等」「自主防災組織」「区長連絡協議会」の区分はどうなっているのか。
・道路が浸水すると車両の移動が不可能になり、市庁舎の１階が浸水するため事務方の避難準備が必要。

→タイムラインの検討会風景

座長総括

・各機関で新たな項目や事前に行う項目があるが、そのベストなタイミングを探し出してほしい。
・避難を考えたときに L1（計画規模） で対応可能な避難所が使えない状況が考えられることから、これまでのL1 対応のマニュアルの他に各機関でL2（想定最大規模） 対応のマニュアルが必要となってくる。

・次回（第５回）検討会では、今回新たに抽出した防災行動項目を組み込んだタイムラインの一次素の修正案を提示する。

↓提供資料